

# いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

スイートピー夢の中まで華やげり

植田 紀子

〔評〕スイートピーとは香りのある豆の意。花に芳香ほうちゆうがあり、葉はエンドウに似ている。蝶の形のひらひらとした花を連ねて咲く。色も多く温室育ちのものは早春の店頭に出回る。行きかう人に春の訪れを告げ、人々の心に春の灯をともし。また、スイートピーが「夢の中まで華やげり」の措辞で、昼間ばかりか夜の夢の中までつながり、色鮮やかな輝きで一夜の夢を飾った。巧みな表現力で心に残る。明るさの溢れた見事な作品。

古本の価は目方春寒し

岡村 嘉夫

〔評〕本棚に入りきらなくなり、しばらくは積み重ねて置くがそれにも限りがある。また昨今では予測される大地震に備えて、本箱など重いものはなるべく部屋の片隅か、または置かない様にと指示もあり売却を余儀なくされた。長年親しんで愛読した数多くの本を買い手方は重量で値段を決めると言う。何とも切ない。春とは言え風はまだまだ寒い。「古本の価」と「春の寒し」の光る取り合わせ、そしてそこに着目した作者の俳眼の「さすが」さが伝わってくる佳句。

シクラメン今にもおどり出しそうに

津田 久美

〔評〕シクラメンは球根植物で、最近普及した園芸植物のひとつ。ハート形の厚い葉を叢生し、その間から次々に花茎を出し、ねじれた蝶形の花が開く。燃えるような紅色花が代表的品種だが近年改良が進み、色もいろいろ花の形も様々である。春が近づくと家々には大小色とりどりのシクラメンの花鉢が飾られ、春を謳歌する。更に明るさと闊達な生命力も見え、蝶形の花びらは春の曲でも流れると今にも踊り出しそうに見える。燃えるシクラメンを擬人化し、愉快な措辞で捉えた楽しい一句。

刈谷 志津選

入選

菜種咲く此処が休み場杖を置き

春光を駆け抜けゆくや一万人

堰越えてより春の水春らしく

紅梅や谷の流れに色と香を

雛飾りそれぞれ違う三姉妹

石鱈しほんだま玉童の声も七色に

初蝶や垣根を越える風を聞く

春浅き岬の便りポケットに

二句抄

食べる事する日を遠く密椎むく

大根の切り干し風を遊ばせる

菜の花の彩を広げて遊歩道

穏やかな讃岐富士です梅日和

桃酒に類染める人美しき

碧眼の遍路土手行く鈴の音

啓蟄や扉を叩く風の音

あの人も春を探して土手の上

金婚の凡夫凡妻木彫り雛

行く道の変る別れや卒業子

春雪や南国土佐も震えけり

風まかせ日にまかせ生く竹の秋

春一番うす毛の頭駆けぬける

後を追ふレースのごとし猫の恋

踏青や避難のためのスニーカー

掌の木彫りの雛遠目がち

幼子の走りにリズム早春賦

誘われし雪割桜納得す

捉えたる日射しそのまま犬ふぐり

如月や眉毛を少し描き足して

冬ざれを解く雨音となりにけり

次題「当季雑詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1 0893-11922

平成28年度こども川柳  
年間優秀作品

最優秀

ありがとう みんなうれしくなる言葉

伊野小 4年 岡田 花

〔評〕「ありがとう」感謝の気持ちを表す言葉。言われておこる人はいない。心で思っても口に出してこそ相手に伝わるのです。いつまでも素直でかわいく大切に育ててほしいものです。

優秀

けんかして ごめんなさいで いいきもち

川内小 2年 山本 結愛

〔評〕言い争いはよくある事。だからこそ「ごめんなさい」で済むのである。ごめんなさいと言った後のさわやかな気持ちがよく川柳にあらわれています。

入選

あいさつは えがおをさかす 花の種類

枝川小 5年 北川 輝

手をつなぐ そしたらもっと なかよしに

川内小 4年 市川 あい

おかあさん だいすきすぎて なさそうだ

枝川小 3年 西村 蓮

今年はね 笑って笑って あはははは

伊野小 4年 上田こまち

花がさく それと同時に 心さく

枝川小 5年 山下 健太

「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。平成29年度初回提出締め切りは5月10日(水)です。皆さんからたくさんのお応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いいたします。